

大豊町合併60周年

第4回 思い出をたずねて

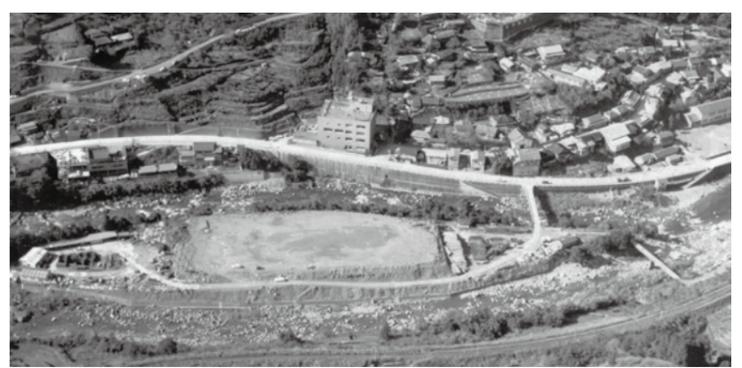
昭和30年（1955年）3月31日に誕生した大豊村。その後、昭和47年4月1日に町制施行し、現在の「大豊町」が発足しました。6月号からシリーズで合併60年の歴史を振り返っていますが、今月号では、昭和50年代のできごとを写真で振り返ります。

昭和51年 農工センター完成
完成時は2階建てでした



1階は既設の農事放送農業協同組合隣りに森林組合と商工会が、2階は会議室や資料図書室などが造られ、11月12日に落成式が行われました。屋上にもう1階つぎ足しができる構造になっており、現在の3階部分（文化ホール）は、合併25周年記念事業の一環として、昭和55年に新たに建設されました。

昭和52年 大杉農村広場完成



大杉中学校と大杉農村広場の用地造成工事は、昭和51年1月13日に着工し、翌年10月28日に完成しました。中州の一部を切りとって国道側の川幅を広げて護岸し、反対側を埋め立て中州と中村大王側を結び造成しました。

昭和54年 式岩橋完成



12月3日に竣工式、渡り初め式が行われました。

昭和54年の主なできごと
町内 スポーツ編

- 大豊中学校男子バレーボール部 全国大会出場!
県中学男子バレーボール春季選手権（兼全日本中学男子選手権県予選）で念願の初優勝
- 西峰中学校女子部 第16回県中学ハンドボール大会で優勝!
全校生徒21名、うち女子8名での快挙
- 第1回県下青少年柔道錬成大会開催
体育会柔道部により、10月28日に大杉中学校体育館で開催されました。県下レベルの大会が大豊町で開かれたのは初めてで、この大会は現在も続いています。

〈10月号は、昭和60年代のできごとについて掲載の予定です。〉

大豊町民 防災 塾 第9回

事前防災行動計画（タイムライン）による防災対応

台風などによる災害から身を守る心得

大豊町など高知県では、台風によって非常に激しい雨が半日から一日、あるいはそれ以上の長い時間降り続き、また地形の影響などにより同じような場所に降り続くといった特徴があることをこの連載の4月号でお伝えしました。台風による大雨が大豊町に降ると、降水量が極めて多くなる傾向があり、それが大きな災害につながります。

住民の皆さまが台風などによる災害から自身の身を守るために最も有効な手立ては、少しでも安全な所へ早め早めに避難していただくことです。

そのためには、口ごろから自分が避難する場所や避難方法を確認しておくこと、災害時には、気象台や役場から発表される情報に注意して速やかに行動することが重要です。

日本の防災対策の課題

皆さまに早めの対応をしていただくためには、住民の避難を支援する立場にある役場や、役場の活動を支援する県や国などの防災機関も早めに対応をすることが求められます。特に台風などによる災害は、地震や津波などの突発的に起こる災害と異なり、進路などから数日前からどのような影響が生じるか予測可能なため、早めの対応ができる災害と言えます。

しかし、これまで日本で行われてきた台風対応を見ると、その多くは、大雨注意報警報が発表されるなど、災害の発生が差し迫った状況から開始され、事後の対応が主な業務となっています。そのため避難勧告などの発表が遅れ、犠牲者が出ることも多くありました。

事前防災行動計画（タイムライン）とは

災害の発生が差し迫った状況から対応が始まる日

事前防災行動計画の特徴と効果

事前防災行動計画の特徴は、先ほど述べたように「誰が」「いつ」「何を」「何を」を詳細に決められていることです。

また、その効果として、「行動時期、行動内容及びその役割を明確にすることにより、災害対応の漏れをなくすこと」「早め早めの防災対応で住民避難行動など余裕を持った対応を可能とすること」「防災対応に必要な機関及び主体で構築し相互の役割が見えるようにすること」「防災機関の対応のパラッキを改善すること」が期待されています。

大豊町事前防災行動計画の策定

大豊町では、2014年4月から策定の準備を始め、2014年9月から2015年3月までの間に計5回の検討会を開催し、四国

大豊町事前防災行動計画の概要

目安とする時間・現象	主な防災対応
10～4日前 台風の発生	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風進路の注視 ● 台風に関する情報の収集
3日前～2日前 大豊町への接近 大豊町への影響の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関への協力依頼 ● 関係機関との情報共有開始 ● 防災関連施設の確認開始 ● 災害対応資機材の準備開始 ● 避難所開設の準備開始 ● 避難行動要支援者に対する支援の調整 ● イベントなどの中止を検討
24時間前～ 雨の降り始め	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所の開設 ● 避難行動要支援者の避難開始
12～3時間前 土砂災害の可能性上昇	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般住民の避難開始（明るいうちの避難） ● 避難の呼びかけの実施（避難勧告）
0時間前 災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の避難完了 ● 消防団など支援者の退避完了

地方で初めて試行版を作成しました。大豊町の事前防災行動計画は21の機関部署によって構成され、238項目の防災対応が記載されています。防災対応は、おおむね5日前から、災害が発生し事態が収束するまでを6段階に分けて記載しています。

今年度は、役場内で机上訓練を実施し、台風第11号では試行版を運用し、集落担当職員から区長へ地区内の要支援者を確認することや、ゆとりすと放送による早めの避難の呼びかけが行われました。今年度は、台風時に試行検証を繰り返す、次年度から本格的に運用を開始する予定です。

「大豊町民防災塾」に関する問い合わせ先 総務課庶務班 ☎ 072-0450